



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2026年05月11日 第1266「週刊五十嵐レポート」

五輪も夢じゃない

4月29日付朝日新聞、「五輪も夢じゃない 押せ女子相撲」という記事。

「大相撲」と「相撲」は似て非なるもの。力士ではなく、アマチュアの選手が戦う相撲は、五輪競技化を目指す動きがある。課題は国内競技人口の男女格差だったが、近年女子相撲が熱を帯びてきている。昨年全日本女子選手権の出場者は計312人。10年前の1.5倍。国内競技人口はこの10年で2倍近い3千人ほどに増えた。

2028年ロサンゼルス五輪では、野球・ソフトボール、クリケット、フラグフットボール、ラクロス、スカッシュの5競技が追加採用されることが決まっている。夏季五輪の場合、男子は4大陸75カ国以上、女子は3大陸40カ国以上で実施されていることが条件。国際相撲連盟には現在90近い国が加盟しており、「男女とも満たしている」と関係者は言う。

各国のスポーツクラブではどこも相撲を取り入れている。相撲は試合時間が短く、勝敗がわかりやすい。ルールが簡単で、他競技経験者が入ってきやすい。欧米ではスポンサーがつく賞金大会がある。国際大会の代表に選ばれたら給料がもらえる国もある。相撲は世界的スポーツになる要素を備えている。

ただ、日本は競技として進歩が遅れている。競技のとらえ方が違う。海外は相撲をスポーツととらえている。だから男女平等に広がっている。日本では伝統文化として大相撲のイメージが強く、女子が入りにくい。神前で勝負を決する大相撲とルールの下で行われる相撲を日本は区別できないでいる。

相撲は過去に五輪に立候補したことがない。「最短で2036年大会をめざす」と目標を掲げる人がいる。元横綱白鵬氏。日本相撲協会を退職、アマチュア界に転身。日本や複数の大陸で国際大会「世界相撲グランドスラム」を行う会社を立ち上げた。白鵬氏曰く、「女子の大会や国際大会がなければ五輪も見えてこない。一つひとつ成長させていきたい」。

少子化、人口減、市場縮小など中小企業を取り巻く環境とも相通じる。海外に目を向ける。外国人材を育てる。視点を変えると広がりは無尽大。

ちょっと
気になる出来事

4月26日付日経新聞、「ブルーカラー長者 国税も注視」という記事。

肉体労働で高収入を得る「ブルーカラービリオネア」の動向を国税当局も注視し始めた。2月には照明交換工事業を営む男が3年間で約2億7000万円を脱税したと起訴された。

米国では人工知能(AI)の急速な発達でオフィスワーク中心のホワイトカラー職の仕事が奪われるとの懸念が広がり、代替しにくいブルーカラー職の注目度が高まっている。担い手不足も相まって医師や弁護士並の収入を得る「ブルーカラービリオネア」も出現している。

日本でもブルーカラー職の人手不足感は強い。2月の有効求人倍率は全体平均1.33倍に対し、建設躯体工事従事者が8.1倍、土木作業従事者が6.9倍。

ただ、急激に賃金が上がっているとはいえ、元の水準が低く依然として全平均を下回る業種も少なくない。高収入を得るためには年間を通して仕事が入るようにすることが大事。元請けを通さず、発注者と直接契約して収益性を上げる努力が必要(接近戦、直接戦、つまり下請けにならない)。

これから日の当たるブルーカラー職も「戦略」が必要である。



一口メモ
知識

愛国心と郷土愛

わたしでもね、君主が亡命している我が国の乱れが厭(いや)になって、国を捨てようと思ったことがあるんだよ。隣の花は赤いというだろう。よその未開の君主国の方がわが魯(ろ)国より素晴らしく見えたのさ。でも、すぐに気の迷いであることに気づいたよ。

まだまだわが魯国も捨てたものではないとね。ものごとの否定的にばかり目を向けてはダメだよ。

わずかでも残っている長所を見つけて、それを押し広げていく努力をしなくてはね。

「高校生が感動した『論語』」(祥伝社新書/佐久協)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

